

平成 22 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4073600514		
法人名	社会福祉法人 豊資会		
事業所名	グループホーム どんぐり		
所在地	福岡県古賀市青柳町803番地		
自己評価作成日	平成22年10月01日	評価結果確定日	平成22年11月 9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kai_gosi_p/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成22年10月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「グループホームどんぐり」は緑に囲まれた古賀グリーンパークに隣接した豊かな自然環境の中に位置する。自然の恵みを五感で感じながら生きるというコンセプトで、代表者の自らの両親の介護の経験を通して感じたり、思われた事をもとに社会福祉法人を立ち上げられた。「迅速・正確・気配り」をモットーに自分や家族が心から利用したいと思われる医療・福祉サービスを提供し、グループホーム独自で作成した「介護10カ条」にもとづいたサービスを提供している。入居者一人ひとりの意思を尊重し、有する能力をできるかぎり活かしながら、家庭的な雰囲気の中で、その人らしく暮らし続けることができるよう全職員で取り組んでいる。入居者の穏やかな笑顔からも伺えるように安心して過ごせるグループホームである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

多様な医療・介護サービスを提供する豊資会グループの1つであるグループホームどんぐりは担当者会議で入居者や家族の意向を充分把握し、ホームに隣接するふれあいセンターやガーデン等や敷地内のデイサービス等の活用で、地域の方々との交流を図りながら、法人の基本理念を日々のケアに具現化している。今年度からくもん学習療法を導入し、確認できた入居者の健康な能力や職員のあらたな気づきを介護計画に活かす予定である。職能面談で個々の職員がいきいきと働く場や環境を支援したり、豊資会タイムや事例発表で情報を共有することで基本理念をさらに具現化する体制づくりに邁進している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット
／ グループホームどんぐり 1階

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい 内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの方針を運営規定や重要事項書に明記し法人理念に基づき「入居者一人ひとりが主役です」をホーム理念に掲げている。法人やホーム理念を玄関の「しいの木庵」のボードに提示している。	多様な介護サービスを提供する母体法人全体で新規採用職員に基本理念を研修している。日々の申し送り時に唱和し、実践に繋げている。基本理念を第1面に掲げた法人発行の広報紙に記載、利用者・家族等、関係機関に配付している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年地域の小中学生と交流があり今年もふれあい活動で来所した小学生3年生と交流楽しんでいる。児童とのふれあいコーナーでは写真たてを一緒に作成されました。隣接する介護予防支援センター来所者との交流や地域の公園への参加は地域の人々と交流する機会になっている。	介護予防支援センターやふれあいガーデン、同敷地内のケアハウス施設でのデイサービス行事参加で地域との交流を図っている。玄関の「しいの木庵」は、訪問者の休息の場ともなっている。又、ネイルアートのボランティアの来所では、華やいだ雰囲気になったりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の中学生の職場体験を通じて認知症の人の介護や支援を見ることによって地域に発進できればと考える。今後は地域の方にもっと理解して頂くよう考える		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は入居者家族・行政書士、銀行理事、行政職員、地域代表などの参加で行われている。参加者の意見を伺いサービス向上にいかしている	会議では、公文式学習療法について説明したり、センター方式のアセスメント記入をお願いするなど、サービス向上について理解や協力を家族にお願いしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、行政の担当を管理者が訪問しグループホームの利用状況や空き情報を報告している。相談事も気軽に出来る関係づくりができており行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。今後とも市町村との連携を深めていきたいと考える	毎回運営推進会議に市担当者が出席していることから、十分に連携がとれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については研修に参加し伝達講習を行ない職員全員学ぶ機会も作っている。今後も研修があれば参加を考える	法人は「身体拘束をしない」ことを基本方針としている。身体拘束に関するマニュアルを整備し、具体的な身体拘束行為について学習している。離園を懸念した家族から施錠について意見のある場合は、付き添って散歩するなど具体的な対応方法を説明している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し伝達講習を行ない職員全員学ぶ機会も作っている。職員一人ひとりが勉強会で学習し今後も研修があれば参加を考える。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や地域福祉権利擁護事業を活用している入居者がおり、制度など理解する為に学習会を開催している。制度などパンフレットを整備し、入居者や家族に配布している。	入居者の後見人の行政書士から制度に関する情報提供を受けたり、入居者の入院手続き等の情報を行政書士に提供している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の終結、解約、改定の時は利用者や家族会等で十分な説明をおこない理解、納得を図っている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に行政機関などやホームの意見・苦情窓口を明記し意見箱をホーム内に設置している。年2回家族会を開き、家族が意見を表出する機会を設けている。運営推進会議に出席した家族から、離園防止の施設や顔写真の整備についての意見や駐車場の溝の整備の要望があり、市担当者に相談している。	運営推進会議は多くの家族から意見を伺うために、1年毎の交代で参加をお願いしている。家族から、爪切りについて意見があり、入浴後に実施していることを説明している。家族会では、家族が参加できる行事について説明している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議に常に問題や提案に対して業務会議を設け問題点や意見をまとめ一つ一つ解決している。	ホーム内の業務会議内容を、同法人に地域密着型サービス事業所の管理者会議で話し合うなど、法人全体で取り組む体制づくりがある。イントラネットを活用した情報の共有や意見交換を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力開発カードで職員の個々の向上心や努力を持って働けるようにしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員はハローワークや求人広告で採用しているが資格や経験ではなく本人のやる気や人間性を重視している。雇用契約書を取り交わし服務規程等を整備している。年次有休休暇の確保や残業手当の支給、休息の場を確保したり、法人全体で忘年会を開催し、職員間の交流を図っている。	新任職員研修を法人全体で実施したり、段階に応じた研修参加や職能面談で職員の意向等に応じた法人内の異動を実施している。常勤職員が多く、モチベーションの維持・向上やスキルアップになっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	「人権や家族が心から利用したいと思えるサービスを提供する。」との法人の理念を学ぶ機会を設けたり、ホーム独自の介護10カ条やぞうさんベーシックを唱和することで、入居者の人権を尊重したケアに努めている。	ホーム独自の介護10カ条やぞうさんベーシックを唱和し、入居者や来所された家族、関係者への対応に具現化している。職員の笑顔や穏やかな言動が印象的である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	法人全体の新任研修の研修実施し、ホームで 業務内容等の研修を実施している。また、今年 度も研修計画を作成し、毎月のカンファレンス時 に感染症の予防、接遇、プライバシーの保護、 身体拘束の研修を計画している。法人内のイン トラネット研修情報が掲示され職員はそれぞ れの段階や要望に沿った研修を受講している。 受講した研修は伝達講習を実施している。また、 全職員が能力開発カードを作成し設定した目標 を自己評価している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協議会に加入し、 研修会等に参加している。今年度も地域包括 支援センターを中心にグループホームネットワ ークで年4回の研修会が計画され個人情報などの 研修会に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っ ていること、不安なこと、要望等に耳を傾けなが ら、本人の安心を確保するための関係づくりに努め ている	入居前には本人、家族で見学してもらいたい本 人の情報を聞きだしながら本人、家族と話し合 いホームの雰囲気を理解して頂くようにしてい る。遊びに来てもらったりすることで馴染みの関 係作りをおこなっている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っ ていること、不安なこと、要望等に耳を傾けなが ら、関係づくりに努めている	家族が困っている不安や要望は担当者会議で おこなっている。また、お話が気軽にできるよう に関係作りをしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等 が「その時」まず必要としている支援を見極め、他 のサービス利用も含めた対応に努めている	よりよいサービスが提供できるように担当者会 議や本人、家族との話をしていく中みつけ進め ている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念として「迅速・正確・気配りをもつとうに」を掲 げグループホームの独自の10力条を確認しなが ら、その人らしい生活を尊重することを忘れず関 係をつくっていくようにしている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	家族との絆を保つことが出来るよう家族に手紙 の依頼を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本さんがこれまで使っていたタンスや置物を持ってきていただき環境に馴染めるようにしている。お茶の時間など皆さんとゆっくりと過ごしていただき会話もすることで馴染んで頂いている。	隣接するケアハウスに入所している家族に定期的に訪問できるように支援している入居者もいる。地域の祭りに出かけたり、家族との温泉行きを支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者との関りの中で気づきや情報を把握に努め、カンファレンスで情報の共有をし入居者が過ごせる空間作りをしている。お互い支え合えるような環境をつくり生活の場に取り入れている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても相談支援も退居された家族から電話をいただきフォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々会話の中で意向の把握を行っているまた、職員間での情報の共有に努めている。	本年度から家族にセンター方式のアセスメントの記入をお願いし、入居者の思いや意向の把握に役立てている。生活歴や職歴等の情報は担当職員に気付きを促し、好評である。	センター方式C-1-2シート(私の姿と気持ちシート)の活用で、さらなる入居者の思いや意向の把握を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人からの情報をセンター方式にまとめ把握に努めて、その方にあったより良いサービスにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間での情報交換、カンファレンスの記録等により現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議前にカンファレンスをおこない介護計画の見直し、担当者会議で家族からの要望や意見をまとめ介護計画を作っている。	系列法人の小規模多機能事業所からの入居間もない若年性認知症にホームでの穏やかな生活を支援するために、事例発表している。担当者会議で担当職員の気づきや家族の意見を話し合い、介護計画を見直している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランのキーワードを記入し、日々の実践の評価をすることで職員間で情報の共有している。介護計画の見直しをおこなっている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会は24時間受け付けている。また、グループホーム内で家族と一緒に夕食をともしたり宿泊にも対応している。法人内の別のサービスとの連携を活かし支援や個別の外出支援、通院など個々の満足度を高めるように入居者のペースにあわせた柔軟な対応が行われる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にある公共の施設や近隣のお店に行くことで楽しみをもてる生活環境を整えている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週、協力医療機関より訪問があり診療を行っている24時間の医療連携体制がある希望があれば入居前のかかりつけ医に受診してもらっている。看護師が医療との窓口になることでスムーズな連携が取れている。また、通院には家族の協力が得られている。	定期的な訪問診療や皮膚科や外科の受診は家族が同伴し、適切な医療受診を支援している。訪問調査当日も訪問歯科診療日であった。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携とっている訪問看護と入居者の個人の契約とし職場内の看護師と連携をとり支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はお見舞いに伺い医師や看護師より情報を得ている。退院前は出来るだけ医師や看護師と話し合いの場を作っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、診療医師、介護職員、看護師と話し合いを適宜持ち支援を行っている。	重要事項説明書に看取りに関する考え方や看取りのケア内容を明記し、入居時に入居者や家族に説明している。現在まで看取りはないが、入居者や家族の意向に沿って常勤看護師を責任者として対応し、職員のメンタルケアについても考慮している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急訓練を適宜行っている。また、急変時の対応についても勉強会定期的に行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力を得ながら定期的な避難訓練を行っている。防災機器の取り扱い防災に関しても心構え、防災マニュアルの見直し確認を行っている。	年2回避難訓練を実施している。夜間を想定した訓練では、職員2人体制で連絡方法を確認している。ホーム等の介護サービス関連施設が公営施設に隣接する立地環境から、地域防災救助訓練に協力している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護10カ条を掲げ常にサービスが行えているか考え尊厳と尊重を大事にしている。退職後も遵守することを書面にて取り交わしている。	個人情報の利用目的や守秘義務を契約書に明記し、個人記録の取り扱いに留意している。入居者への声かけも丁寧で穏やかで、入居者に出来る限りやっていただいたり、ゆったりと無理強いしない「ほど加減」の支援を実践してる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が意向を表出やすくし自己決定が出来るように介護10カ条に沿って行っている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が意向を表出やすくしペースに沿った食事、入浴を行っている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容時は必ず声掛けをし、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや配膳の食器拭き等は入居者主体で職員と一緒にされる。職員は一人ひとりの嗜好を理解し入居者の様子を見ながら食事ができるように雰囲気づくりを大切にしている。	法人厨房で一括して給食を提供しているが、希望献立日を設けたり、手作りのおやつづくりを楽しんでいる。咀嚼や嚥下困難な入居者にソフト食を準備し、ゆっくり時間をかけて経口摂取を支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は食事量についてはチェック表を用いて把握している。一人ひとりの栄養管理は施設の管理栄養士が把握しバランスの良い献立が提供され、水分が摂りにくい場合はゼリーにしたり入居者の嗜好や状態に応じた食事形態に配慮している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の口腔内の汚については自立の方には声掛けを確認する。介護が必要な方によっては職員が本人能力によって口腔ケアをおこなっている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンや自尊心を傷つけないようにおこない、失敗を減らす為アセスメントを取り声掛け誘導をおこなっている。	排せつパターンに沿って定期的に誘導し、トイレで排泄ができるようになった入居者もいる。トイレ入り口に使用中の札を下げたことで、安心して使用できると入居者に好評である。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防のため飲食物や運動を毎日している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	完全個室で入居者の希望にあわせいつでも入浴できているようにしている。季節に合わせて菖蒲湯や柚子湯など実施している。	四方から介助できる個浴槽や浴槽中央の手すりの設置で、入浴を容易にしている。車イス利用者は2人体制で入浴を支援している。入浴拒否の場合は職員を変えて声掛けすることで、スムーズに支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を決めてはいるが本人が起きていたい時は一緒に過ごし、その方の生活のリズムに合わせている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬の目的や副作用を確認しカンファレンスのときも個々の確認をしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵、散歩、米とぎ、食事の盛り合わせ、自室の掃除など自分の役目として職員と一緒にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望を収集し隣町の菖蒲祭りやお正月には近隣の神社に参拝などしている。	家族と温泉に出かけたり、外出する入居者も多い。日頃は隣接するふれあいガーデンあいや古賀グリーンパーク周辺を散歩している。先日コスモスを観に出かけた際の笑顔の写真が共用空間に掲示されている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物があるときは自分の財布から買物をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族に手紙を出したいと希望があるときは手紙を書いて出している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明を工夫したり、カーテン・障子などで日差しの調整を行っている。リビングには和室コーナーがあり、肌寒い時期はこたつがセッティングされ、入居者同士がゆっくりと談話される様子が伺われる。季節の花や入居者の作品を飾ったり、生活感や季節感のある居心地が良い木のぬくもりが伝わる家庭的な空間になっている。	各階の玄関口や居間の壁に入居者の季節感あふれる作品が掲示されている。また、共用空間には車イス対応の洗面台も設置され、季節の花が飾られている。居間からウッドデッキのプランターの庭に植えられた花や木々が見えるなど、自然を取り入れた環境づくりに職員の創意や工夫が伺える。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人になりたい時は小和室、和室などで腰掛けて本や新聞を読まれたり工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、写真や生花・装飾品が飾られ一人ひとりの個性のある部屋となっている。自宅が使われていたなじみの家具や日用品が持ち込まれて、安心して生活できるように工夫されている。	各居室の入り口は入居者の好み等を考慮した表札やインテリアで飾られている。全居室に持参したベットが設置されているが、入居者の心身の状況に応じてカーペット敷の居室もある。掃除機を持参している入居者もいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事の準備や散歩に行くときも自分で出来ることと理解されることは見守りながら一緒におこない自立した生活が送れるようにしている。		